

清水義明 講演会

(プリンストン大学名誉教授)

核による災難と 二人の芸術家の反応

平山郁夫【1930-2009】と Ben Shahn【1898-1969】の場合

Lecturer

清水義明

【プリンストン大学名誉教授】



上空から落とされた原子爆弾のため炎上する広島市を描く平山郁夫。南太平洋のマーシャル諸島のビキニ環礁で水素爆弾実験により日本の漁船、第五福竜丸と、その船員 26 名がまともに放射線をあびた惨事を描くベン・シャーン。この講演は、二人の二点の作品を取り上げ、それぞれの絵が出来上がるまでの作画過程を追いかける。

Date

2015 年 2 月 22 日(日)

13:30 開場 14:00 講演会 入場無料

Venue

兵庫県立美術館 1 階 レクチャールーム

『核による災難と二人の芸術家の反応：日本の平山郁夫の「広島生変図」』

1945年8月6日、広島上空から落とされた原子爆弾のため炎上する広島市を描く平山郁夫の「広島生変図」(広島県立美術館蔵)と、1954年3月1日南太平洋のマーシャル諸島のビキニ環礁で実験爆発された、水素爆弾のため日本の漁船、第五福竜丸と、その船員26名がまともに放射線をあびた惨事を描く「Saga Of Lucky Dragon No.5」(アメリカ、首都ワシントンのスミソニアン施設、アメリカ美術コレクション所蔵)。二点の作品を取り上げ、それぞれの絵が出来上がるまでの作画過程をこの講演で追いかける。

とアメリカのベンシャーンの「SAGA OF LUCKY DRAGON NO. 5」



清水義明 (プリンストン大学名誉教授)

17歳で渡米、ハーヴァード大学等で美術史を専攻し、並行してボストン美術館付き Museum School 等で絵画の実技を学ぶ。カリフォルニア大学バークレー校で教壇に立った後、スミソニアン博物館で学芸員として5年間勤務する。その後、プリンストン大学で25年間の教授生活を送り、2009年に退職。東洋美術に関する著作・論文多数執筆。2009年プリンストン大学名誉教授。2013年アメリカ学士院会員。2014年ゲッティ研究所招聘教授。現在、オレゴン州ポートランド市在住



神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1 (HAT 神戸内)

TEL 078-262-0908

阪神岩屋駅(兵庫県立美術館前)から徒歩約8分

JR 灘駅南口から徒歩約10分

阪急王子公園駅西口から徒歩約20分

主催・兵庫県立美術館 アートフュージョン実行委員会

